

木通 信

Komorebi Tsushin

第12号

平成15年3月
つきだて花工房発
季刊誌

〒960-0903 福島県伊達郡月舘町大字下手渡字寺窪7
TEL024(573)3888 FAX024(573)3887
E-mail: hanakobo@safins.ne.jp
休館日/毎月第1、第3次曜日(休館日の前日は17時まで営業)
つきだて花工房ホームページ <http://odehime.or.jp/hanakobo>

つきだて花工房は木もれ日のようなぬくもりと
やさしさを持ち続ける皆様の公共施設をめざします。

花のアルバム

アルバムの
12ページ

バラ

そよぐ風

ひかりのびけき

春の日に

ゆつくり、ゆつたり

田舎の道を歩いてみる

そんな一日が

あついでいかも...



つきだて花工房のつるバラ(平成14年6月撮影)

卒業、新入学、転勤、就職：春は別れの寂しさと、始まりの希望が入り混じった、ちよつと複雑な季節、多くの人々は感謝の心、激励の気持ちを込めて花束を贈る習慣があります。花束にまつわる物語は、人類のはじまりに近いネアンデルタール人の頃から残されており、ずつとずつと昔から、「お花は大切な気持ちを託すかたち」として用いられてきました。数ある花材の中でも、華麗に咲き、甘い香りを持つバラは人氣が高く、その起源はなんと約7千万年前と、想像を絶するような古い昔にさかのぼると言われます。



輝き咲く薔薇たち

2月に剪定と誘引、追肥を済ませたつきだて花工房のつるバラは、春まだ浅き3月、新しい小さな葉が所々に見られるものの、まだまだ棘の枝ばかり：しかしそこには、後に咲き誇る美しいバラたちの生命が、凝縮されているような力強さを感じます。

つきだて花工房へのエントランスアップローチの役目を果たすフェンスをつたい、贅沢な自然の演出を見せてくれるバラたちが、最も輝く季節は5月から7月：写真家の秋山庄太郎先生が、生前つきだて花工房を訪れてくださった際、

カメラを構える師のフアインダー越しにはいちだんと優雅に咲いたバラたちがありました。多くのバラの作品を残された秋山庄太郎先生のネガのどこかに、このバラたちが潜んでいるということとはとても感慨深いことです。

どこかで春が

3月に入ると、陽射しが急に柔らかくなり、窓辺の花たちもやさしい光に包まれます。人々は、北風が吹く寒い冬があるからこそ、暖かな春の訪れを待ち焦がれ、新しい光に始まりの季節を予感するのでしよう。

スイセンの芽をあたためるかのようになり、瑠璃色の小花、オオイスノフグりが咲いていました。足元の小さな春を見つけて心がほぐれていくのを感じながら、目の前に連なる阿武隈の山並みを眺めます。そこには目には見えない「もうひとつの春」が育っています。あわただしい日常と並行して「もうひとつの時間」が流れています。

どこかで「春」が生まれてる、どこかで水がながれ出す、どこかで雲雀が鳴いている、どこかで芽の出る音がする。
百田宗治「どこかで春が」



野の花とスイセンの芽

穏やかな いちにち



浴室から眺める
ロックガーデンに
春一番のクロッカス

陽だまり、小鳥たちのさえずり、
野花や木々の新しい命…

里の春は
やさしさに包まれている。
平和な時間が今日も流れる。

果樹グリーンツーリズムの会のみなさま

月館町内にお住まいの寺島武さんが、半年前にオランダ、デンマーク、スイス、ドイツを共に旅した同志と、つきだて花工房で再会されました。皆さんは、福島県内で専業果樹農家を営まれており、中には北会津村や大熊町などから、車で片道2時間以上かけてお越しくださった方もおりました。

皆さんは、海外のグリーンツーリズムを体験されながら、環境にやさしい有機農業を学んでみえました。寺島さんは「食の安全性がクローズアップされています。環境のことを考えながら、自然と人の体にやさしい果物を生産してゆきたいです」と語ります。

果樹農業に人生を賭けた、若手生産者の皆さんは、チェックアウト後も遊歩道を歩いたり、野外のテーブルを開んで夢を語り合ったり、ゆるやかな時間が流れるつきだて花工房での休日を楽しんでおられました。



家族が集う大切な日

喜寿のお祝い
平成15年2月9日(つきだて花工房)



月館町にお住まいの阿部初子様のお祝い、つきだて花工房で行なわれました。いつの日も家族の温かさは心に響きます。小さなお子様の笑い声が、お祝いの席をいっそう明るくされて、和やかな空気の中、家族が集う大切な時間が流れていました。

子供のころ



おおきな
ブラックバスが
釣れたよ!

いつもご家族でお昼を食べに来てくれるよい子は、俊介君、俊介君、大介君の3人兄弟。サルそばとえびのの使い方がとっても上手です。

芳賀亜矢先生、ありがとうございました!

小手小学校5学年生徒(12名)一同より



もりもり農園 思い出 づくり

平成15年3月16日 日曜日
お天気 晴天
参加者 大人14名、
子供12名、幼児2名
スタッフ4名
もりもりメニュー
ピザ作り、ウッドバーニング、
ジャガイモ植え、
ターザンロープ等

もりもり案内人ヒテちゃんのもりもり日記
本日のイベントは、小手小学校5年生の親子レクリエーション。お世話になった先生とのお別れパーティーだ。ピザ作りの講師に高橋睦美さんをお呼びして、みんなで作ったピザを石窯で焼いた。畑ではジャガイモ植え：先生との再会はジャガイモ掘りという子供たちの作戦か？先生への贈る寄せ書きはウッドバーニング、木の板にそれぞれの想いを込めた。

先生と子供たち、親たち三者の親しい思い出づくりは満足してもらえただろうか…まだまだ課題がいっぱいのもりもり農園だが、青空の下でのピザはうまいし、何よりもみんなの笑顔がうれしかった。(英・記)

つきだて花工房のうちはげばなし

突然の悲報が信じられなかった。信じられなかった。平成15年1月16日、写真家秋山庄太郎先生が急逝。82年の生涯を終えた。

先生は2度程つきだて花工房にお泊りくださった。朝は4時に起床され、柿の木の風景を撮影に出かけられた。初夏にお越しくださった際は、つきだて花工房のバラにシヤッターを切った。

お話しを交わしたのは1度だけ。フロントに立っていた私を、手招きされたのがうかがうと、「スタッフは何人：足りるかな？」と「南国の花々」のポストカードセットを手渡してくださいました。「ありがとうございます。…それだけの会話だったが、先生のやさしいお人柄、温かさががひしひしと伝わってきた。いただいたポストカードのうちの2枚が手元に残っており、私の密かな宝物である。

遊写三昧で紹介されている、先生のお言葉が心に残っている。「花つてほんとうにキレイだねえ、僕、発見したんだよ、今。花はみんな太陽に向かって咲きだがつていることを。だから花は太陽、つまり上から見たときが一番きれいなんだ」



先生は今ごろ、空の上から春の息吹きの山々を眺め、もうじき訪れる春爛漫の花見山の撮影準備をしているかもしれない。そして桃源郷の花たちが、太陽に向かっていつせいに咲きたす日待って、シヤッターを切られることだろう。

秋山庄太郎先生と
会のみなさま
平成9年11月16日

おすすめ平日ご休憩プラン

陽だまりコース…個室休憩と入浴と松花堂弁当がセットになってお一人様1,800円(11時から15時まで、3名様より)
ゆったりコース…大広間休憩と入浴がセットになってお一人様500円(10時から15時まで)
※ゆったりコースは大広間が貸切の場合ご利用できないことがあります。あらかじめお電話でご確認ください。

福島には 桃源郷がある...

2003年、偲ぶ春。
百花繚乱、
いつもと変わることなく
美しく咲く花たちも、
散り行くときの花びらは
亡き師を悼む涙かもしれない。



公園内に臨時出張された「花と緑の郵便局」。4月は毎日開局。記念切手、ふるさと絵入りハガキなどが販売される。開局日は要注意。問い合わせ先/福島中央郵便局 TEL.024(533)1204



つきだて花工房から、車で約30分の所にある花見山は、花き栽培農家を営む阿部二郎さんが父親の意志を継ぎ、30年以上の歳月をかけて命を吹き込んだ、ロマン溢れる公園です。写真家の秋山庄太郎先生が、「福島県には桃源郷がある」と、その魅力を紹介されてからは、全国的な花の名所として知られるようになりました。

4月、桜、花桃の淡色の花が一斉に咲き誇る中に、ハクモクレン、レンギョウ、ツバキ、菜の花、ボケなどの春色がアクセントを添えて、訪れる人々を感動の世界へ誘います。まるで協奏曲を奏でるかのような花々の演出は、はじめは雑木林だったこの山を人力で開墾され、花木を植え続けてこられた阿部さん親子の熱い心に、花々が応えているかのような百花繚乱の眺めです。

春山のクライマックス。多くの人々にぎわいをみせる花見山は、今年も変わることなく温かな、そして大きな懐で訪れる人々の心をやさしく包みこんでくれることでしょう。

写真協力/花の会福島支部、菅野利和様

始まりの春にちなんで...
新コーナーを二つ設けました。

1つめは、日本の四季に合わせた季節のお料理の紹介です。つきだて花工房の調理長が、旬の素材を使った手作りの味をご紹介してゆきます。是非チャレンジしてみてください。

2つめは、ハーバリイの提案です。生活に役立つ植物ハーブを身近に感じていただき、調いのある日々を過ごしていただくために、クラフト、美容栽培、料理などを紹介させていただきます。

テーマはスローフード&スローライフ。つきだて花工房からの提案です。

旬を楽しむ

春のひとしな 筍の香梅煮

Slow Food



筍の香梅煮

材料

- ① 筍500g テク抜きしたもの
- ② 露出し汁(木だしでも可)1000cc、昆布10g、日本酒90cc、砂糖90g、塩小さじ2、梅干し(大)2
- ③ 3ヶ、布巾等で巻いた鰹節30g
- ④ うす口醤油70cc、こい口醤油10cc
- ⑤ みりん少々

作り方

- ① 乱切りした筍500gを材料②で落とし蓋をして30分ほど煮く。
 - ② 火加減は沸騰したら弱火、梅干しは3ヶ4箇所、竹串等で刺しておく。
 - ③ 次に③の醤油を加えて汁が半分になるまで炊き上げる。さらにみりんを少々加え10分くらい炊き、味を整える。(好みにより砂糖、醤油を加える)
 - ④ 火を止め、ひと晩置いて味を含ませる。
- 調理長のワンポイントアドバイス**
- 筍と鰹節はともにも相性がいいので...
● 筍を煮くときは鰹節を多めに使いたしましょう。
● 盛り付けたあと粉鰹節をかけてもおいしいです。

ハーブと暮らし

幸福を招くおまもり フルーツポマンダー

Slow Life

材料

オレンジ・クローブ40g、飾り用リボン90cm、ポマンダー用スパイスミックス小さじ1杯、オリスルトパウダー、シナモンパウダー、オールのスパイスパウダー、カルダモンパウダー

作り方

- ① オレンジのへたを下にして上からセロテープを十字にかける。
- ② あらかじめ竹串でセロテープ以外のところに穴を開け、そこにクローブを刺す。
- ③ 全体に刺し終わったらセロテープをはずし、ポマンダー用スパイスミックス小さじ1杯を入れたビニール袋の中に入れ、転がして全体にまぶす。
- ④ ネット袋に入れて口を閉じ、風通しのよいところに吊るして(20日〜1ヶ月位)よく乾燥する。
- ⑤ 完全に乾いたらリボンをかけて結び、できあがり。



フルーツポマンダー

はみだし
コーナー

花工房BGM ● シャンソンファボリット/パトリック・ヌジェ ● アカブルコの月/桑山哲也
花工房ライブラリー ● 秋山庄太郎「60年の軌跡」 ● 麗しの銀幕スタア

Hana

「はなくらぶ」は皆さまとつきだてて花工房をつなぐページです。お便り・情報など何でもお気軽にお寄せください。お便りお待ちしております。

「これぞインタビュー」
「書からの新生活は」
「ハーバルタイム」を

好評のハーブ教室の講師をお願いしている、ハーブコーディネーターの菅野夕起子先生に、ハーバルライフの楽しみ方をうかがってみました。

Q ハーブについて簡単に教えていただけますか？

A ハーブとは毎日の暮らしに役立つ植物群のことです。一年を通して生活の中でその香りを楽しむことができます。花の季節には花を楽しむ、葉が繁れば摘んでお茶にし、ハーブのお風呂で疲れをほぐしたり、他にも料理やボブリー、リース、ブーケ、染色など、自然の恵みを生活の中にもたらしてくれるやさしい植物です。

Q ハーブの魅力って？

A ハーブに接しているだけで心がなごみ癒される感じがします。たとえば草取りをしている時、あたりに漂うハーブの香りが、体の隅々まで行き渡る思いがします。芳しい香りと可憐な姿が、夢を与え、心豊かな気分してくれます。

Q ハーブの楽しみ方は？

A 小さな自然と一緒に暮らせることは、とても素敵なことです。種や苗から育て、収穫し、それを毎日の生活に取り入れる楽しさは、一度知ったら病みつきになります。栽培、料理、美容、お茶、クラフトなど、おしゃれなアイデアがたくさんあって、ハーブの可能性には限りがないと思っています。

Q 好きなハーブは何ですか？

A ハーブの全てが好きです。ハーブの花は小さくて愛らしく、眺めているとそれぞれみんな可愛いのです。うーりん、ひとあげるるとすれば、ハーブの女王ラングラー、かしら。可憐な紫色の花色とエレガントな香りが特徴で、とても幅広く利用できます。

Q 栽培は簡単ですか？

A ハーブの原産地は、ほとんどが地中海地方で、石灰質の水はけの良い土壌で育っています。日本の土質は火山土で、酸性から弱酸性土です。そこで、土を中和させる石灰を施すことがまず第一。ハーブはもともと野草ですから、あまり神経質にならず、水はけをよくすればどこでも育ちます。

ほとんどのハーブは日光が大好きなので、一日6時間は日に当てるようにしましょう。水やりは、前にやった水がなくなつてからたっぷり与えます。通気性を良くして、鉢やプランターの中がじめじめしないように心がけます。

Q 楽しい教室にしたいですね。

A ハーブの楽しみ方をたくさんの方に知ってほしいと思います。作ってみて楽しかった！と喜んでいただけるような教室にしたいと思っています。是非参加してくださいね。



3月16日のハーブ教室フルーツボマダーづくり

お便りコーナー



菅野夕起子様・霊山町

花 日本の代表的なハーブ「柚子」は、カンキツ類特有のさわやかな香りがお料理に大活躍。お鍋に誘われなくなるような絵手紙に「ほのぼの」させていただきました。

も りもり農園の記事を読みました。石窯が作られ、パン焼きが体験できて楽しそうですね。将来はつきだてて花工房にピッツァ、パン職人がいて、作りたてのアツアツのピッツァなどを食べるのができたらすばらしいですね。

(二本松市・斎藤初恵様)

花 いつかつきだてて花工房のオリジナルピッツァが作れればいいなあと思っています。ピッツァの上に食用の花を盛り込むとか、ゴマの香りするルッコラや、野菜をたっぷり盛ったサラダ感覚のピッツァとか。トマトソースの研究、モッツアレラチーズの入手など課題はたくさんありますが、楽しみなながら日々夢を持って前進。アイデアがあったらどうぞ教えてください。

(二本松市・斎藤初恵様)

ムーン講座

絵手紙教室
 日程 4月14日・5月26日・6月23日
 すべて月曜日

受講料 1000円(1回)
 時間 午前10時から2時間程度
 講師 和田恵秀先生

ハーブ教室 ハーブソープづくり
 日程 4月20日(日)

受講料 1500円(材料費含む)
 時間 午前10時から2時間程度
 講師 菅野夕起子先生
 お申し込みは☎024(573)3888
 はなくらぶ係まで

こもれびニューイヤープレゼント

千支組木当選者発表

渡辺登志子様(月館町・本田チヨ子様(月館町)・佐久間紀恵子様(川俣町)・伊藤やす子様(福島市)・大森弘視様(東京都)・斎藤子様(月館町)・服部友美様(安達町)・斎藤初恵様(二本松市)・斎藤妙子様(月館町)・斎藤晴香様(保原町)

もりもりニューイヤープレゼント

冬野菜セット当選者発表
 斎藤善三様(月館町)・渡辺志智男様(郡山市)・岡田一郎様(東京都)・本田洋子様(月館町)以上の皆さま、ご当選おめでとうございます。

手塩に掛けてお作りになった、新鮮な野菜の数々に、家族一同が驚嘆いたしました。早速、おでんの素材や鍋物、そして漬物にして、冬の花工房周辺の風景を想像しながら毎日ご馳走になっています。
 (日15・18) (東京都・岡田一郎様)

花工房からのお知らせ

新鮮野菜直売所やさしい工房オープン
 (つきだて花工房内)
 今年も月館産の安全でおいしい野菜、新鮮な野菜を、お安くみなさまに提供していきます。ご愛顧よろしくお願いたします。

営業日 毎週土、日、祝祭日
 営業時間 午前11時～午後4時まで
 ●もりもり体験教室のご案内！

里山体験・農業体験コースがございます。各種プログラムの中から好きなコースをお選びください。もちろん石窯や野外キッチンを使った、ガーデンパーティーとの組み合わせもOKです。

編集後記



花見山掲載のお願いに、阿部郎さんをお訪ねすると「思いのままに書いてください」というご返事。飾らずシンプルに「素直に書く」ということの大切さを教えていただいた気がしました。

秋山庄太郎先生と阿部郎さんは、表現の方法は別でも、共に「花」を通じて多くの人々に、感動と喜びを与えてくれます。一つの事を興く意志も、大いに見習わなくてはなりません。4月10日、福島市内に「秋山庄太郎花の写真館」がオープン。心に栄養がほしい時、私は何度となく先生の写真を拝見し、そこを訪れることになるでしょう。

秋山先生を偲んで、一本の苗を購入しました。花言葉に願いを込めて選んだ苗です。
 (佳代)



月の明かりで疲れた心を癒したい。
 いますぐカレンダーにチェック!!

4月17日(木) [満月の夜]
 5月16日(金)
 6月14日(土)

4月2日(木) [新月の夜]
 5月1日(木)
 5月31日(土)